

大会名称: 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

バスケットボール競技

開催場所: 神戸市立中央体育館 Gコート

試合区分: No. 420 少年女子 2回戦

期 日: 2006(H18)年10月2日(月)

主審: 安力川 剛士

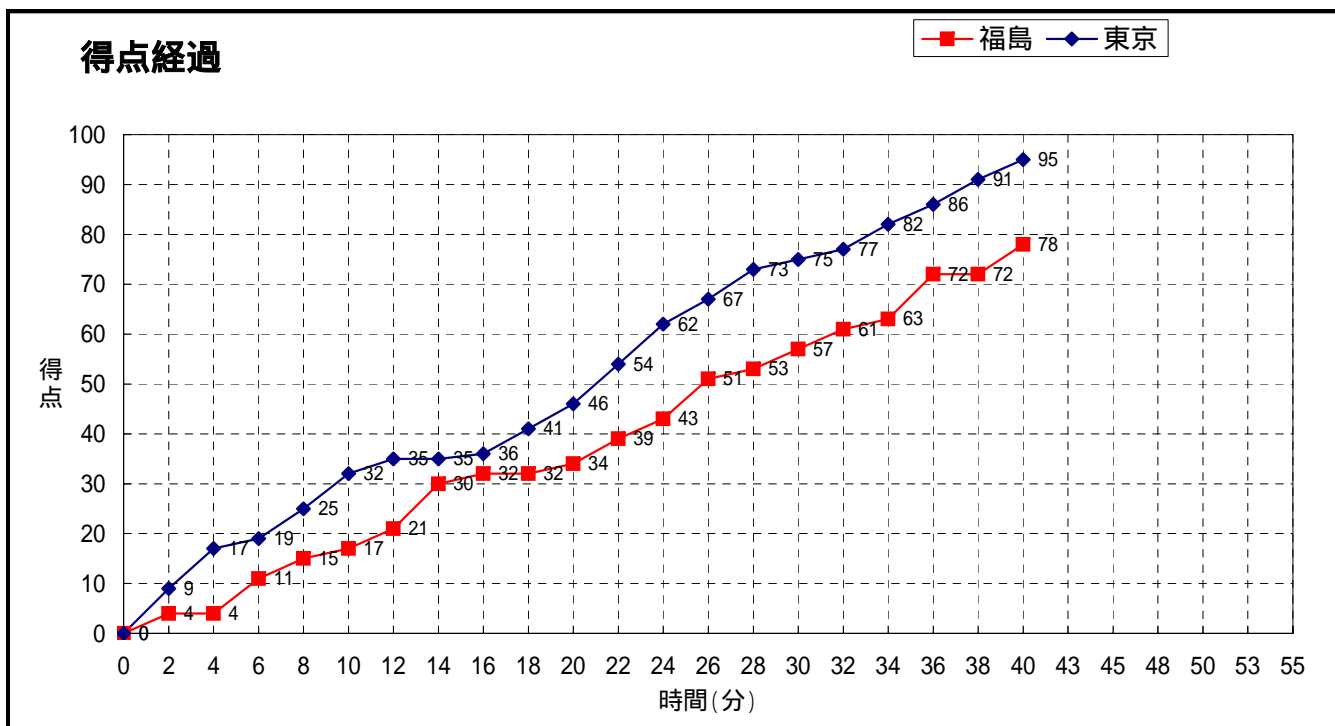
開始時間: 11:45

副審: 木下 和孝

終了時間: 13:15

東京		95					78					福島			
(関東)												(東北)			
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	有山 景子	2	0	1	0	0	4	*	太田 菜緒	4	0	1	2	2
5	*	山田 菜美	9	0	4	1	0	5	*	高橋 礼華	10	0	5	0	5
6		飯野 菜季	17	1	3	8	2	6	*	菅野 恭子	10	2	2	0	4
7		鈴木 裕子	4	0	1	2	0	7	*	菅野 真奈	2	0	1	0	2
8		川村 美穂	3	1	0	0	1	8		中野目 未来	8	0	3	2	2
9		中島 ひろみ	2	0	0	2	1	9		松田 由衣	22	1	9	1	3
10		大伴 菜奈	3	1	0	0	0	10		外島 加奈絵	10	0	4	2	3
11	*	本田 雅衣	14	3	2	1	2	11		川島 萌瑞	0	0	0	0	1
12	*	光山 慈能	15	1	5	2	2	12	*	新國 杏子	6	0	3	0	3
13		天野 佳代子	8	0	2	4	0	13		國嶋 悠理恵	0	0	0	0	2
14		清水 愛咲美	7	0	3	1	2	14		塩田 紀子	6	0	3	0	1
15	*	間宮 佑圭	11	0	4	3	0	15		丹野 愛子	0	0	0	0	0
コーチ		下坂 須美子						コーチ		水野 慎也					
合計			95	7	25	24	10	合計			78	3	31	7	28

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファウル



ゲームレポート

第1ピリオド、開始2秒、#12光山のレイアップで東京の火の出るような攻撃の幕開け。#5山田、#15間宮、#4有山らのシュートが決まり、残り6分、#5山田の速攻がファウルとなったところで福島タイムアウト。洗練された福島のオフェンスが、東京の「高さ予測」にパスの精度を微妙に狂わされ、#5エース高橋さえもオフェンスファウルをしてしまう。しかし福島は、タイムアウト後、ディフェンスをゾーンに変え、#9松田の連続シュートで残り3分に23-13と10点差まで追い上げる。しかし東京は、#11本田がインターハイでの負傷の悔しさを晴らすかのように、アシストや速攻に大暴れし、32-17と東京15点リードで終了。

第2ピリオド、福島#5高橋が意地のシュートを決める。「高橋効果」で福島のディフェンスのプレッシャーが強まり、#10外島、#8中野目のシュート、#6菅野の3Pシュート、#5高橋のスティールからのレイアップが決まり、残り6分で35-28と福島が追い上げたところで東京はスタートメンバーに戻す。福島は、#8中野目のタップシュートなどで更に点差をつめる。この勢いを続けたい福島だったが、ファウルがかさむ。東京は、#15間宮の連続シュートなどが決まり、46-34と東京がリードして前半終了。

第3ピリオド、開始6秒、またも東京#12光山が後半を動かす。残り8分、福島#5高橋が4つ目のファウル。福島はタイムアウトを取り、絶妙な声かけで#5高橋を落ち着かせ、リバウンドにシュートにと大活躍。しかし東京#12光山、#11本田の連続3Pシュートで再び東京のオフェンスが点火する。福島は#9松田のシュートなどで必死に反撃するが、残り4分、#5高橋が5つ目の反則。だが、「心」を鍛えられている福島は必死に粘り、#6菅野のシュートなどで諦めない。75-57、東京リードで終了。

第4ピリオド、開始6秒、福島#4太田が執念でフリースローを決める。福島は何度も選手交代をして激しいディフェンスをくり返し、絶対に諦めない。両チーム激しい接触が続く中、東京#6飯野、#14清水のフリースロー、福島#12新國のシュートなどの試合展開の中、残り5分、福島は最後のタイムアウトを取り「気合」を注入。その「気合」は選手に届き、すぐさまインターセプトからレイアップを決める。#9松田はまだまだ元気！しかし東京には#12光山がいる。速攻のアシストなどで福島に追撃を許さない。#8川村の3Pシュートなどを決めた東京が、95-78で勝利した。

担当者: 宮崎 智之(兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本体育協会・(財)日本バスケットボール協会